

## 岡山醫學會彙報

### 岡山醫學會通常會

同會は本月二十日午後三時二十分より岡山醫大附屬醫院南臨牀講義室に於て開會す生沼主幹開會を報じ直ちに左記講演に移る。

#### 第一席 幼若白鼠松果腺剔出後に現はるる形態變化殊に

生殖腺と腦下垂體に就て

醫學博士 伊澤好爲君

幼若白鼠(生後20日)に剔出試験を行ひ生後85日に之を殺す即ち65日の觀察期間に於ては剔出動物は體長、體重及び尾長共に對照動物より大なり。剔出後の早期發育は雌雄共認めらる。生殖腺(睾丸、副睾丸、精囊、攝護腺、「コーペル」腺、卵巢、子宮等)も松果腺剔出によりて肥大す。腦下垂體はやや肥大するも然れども之を體長を單位としてDonaldson氏の表に照して計算すれば、むしろ剔出動物のそれは對照動物に比し小なり(詳細はアメリカ生理學雜誌1926年6月號參照)(自抄)

#### 第二席 種々なる刺戟に對し各種白血球が如何なる反應を

呈するやの實驗的研究

(第二回報告 各種組織の接種による白血球の態度)

病理教室 ドクトル 松波巽太郎君

寄生蟲刺戟に對して反應出現する白血球の態度が一定の反應條規に従て常に一定不變なりしが如く又各種組織の刺戟に對して如何なる反應を呈するやの實驗的検査の結果によれば之れ亦常に一定の條規を具へたる經緯を示すことを確定せり従て各種組織に對する白血球の態度を比較して論述せり。(自抄)

#### 第三席 妊娠の電氣的診斷法

(血清電氣反應に基く妊娠の一新診斷法)

解剖教室 熊谷藏之允君

上坂博士及び關正次博士等が白色竝に黃色葡萄狀球菌を以てせられたる研究の結果に依れば免疫血清は普通血清に比し概して菌又は粒子に陽性電氣を附與するの力強きものなり。

予は此の事實を應用して妊娠を診斷せんを企畫せり。

妊娠の場合に於て母體の血液中に變化の起るは母體に對して異物たる胎兒竝に其の附屬物有るが爲に生じたるものなるが故に胎兒の或る部分を抗體原として之に母體の血清を作用せしむれば其の電氣的運動が如何に變化するかを觀てこの電氣的運動の變化に依りて歸納的に妊娠を診斷するものなり。然り而して予は此の電氣的運動の變化を顯微鏡下に於ける「カタホレーゼ」運動に依りて觀察せり。

試験の結果次の如き結論を得たり。

1. 余の血清電気反應に基く妊娠の新診断法は分娩直後の健全なる胎盤の純「アルコール」抽出物を0.9%の滅菌食鹽水にて25倍に稀釋して生じたる「エムルソイド」に非動性となしたる被檢血清を25分の1量加へて3時間室温に放置し後其の「エムルソイド」粒子の「カタホレーゼ」運動を觀測して其の運動の測度に依り該血清所有者が妊娠せるか否かを判定するものなり。
2. 妊婦の血清は非妊婦の血清に比し胎盤の「アルコール」抽出物を以て作れる「エムルソイド」粒子に陽性電氣を附與するの力遙に強し即ち陽極に向つて動く「エムルソイド」粒子の電氣的運動の速度は妊婦の血清を加ふることに依りて著しく減するものなり。
3. 本診断法に依れば妊娠1箇月の末期には既に確實に妊娠なることを診断し得るものにして恐らく受胎後2週間前後より診断し得るものなり。
4. 本診断法を以てせる現在迄の試験例にありては妊娠せるものは悉く陽性に表るるものにして敵毒の外陽性表るる疾患なきもの如し而も妊娠と敵毒とは「エムルソイド」粒子の電氣的運動の測度の差異に依りて大抵は判別し得るものなり。即ち非妊婦血清 < 敵毒血清 < 妊婦血清なり。
5. 本診断法に依る成績は妊娠中は勿論陽性に表るれども分娩後2週間位までは陽性に表るるもの如し。
6. 本診断法によれば其の成績は僅か1時間にして判明し而も確實なるものなり。
7. 基體の製法簡單にして何人も又何所にも容易に之を作り得るものにして冷暗所に之を貯藏して「アルコール」分の發散を除けば2年間には使用に耐ゆるものなり。(自抄)

右終りて午後四時半閉會す。

## 本會役員會

去月二十九日午後三時より岡山醫大生理學教室に於て本年度第一回役員會を開き

大正十五年度豫算

會費未納者除名ノ件

を議決し午後四時散會す。當日の出席者は田中會長、上坂副會長、池上、生沼、好木、遠藤、赤岩、北山、皆見清水、庄司、白坂、關場、鈴木の各評議員諸君なり。

---

## 六月分岡山醫學會通常會

本年六月分本會通常會は同月十七日午後三時より岡山醫科大學附屬醫院南臨牀講義室に於て開會すべし。